

秋田県立大学 図書館だより



No. 1 2000.11

》》》》》》》》》 目次 《《《《《《《《《《

図書館だよりの創刊に当たって 図書・情報センター長 曾根 敏夫	1
あなたの手で成長させる図書館へ 図書・情報委員会図書運営部会長 佐藤 了	3
図書館利用案内	4
資料探索法：コンピュータ目録（OPAC）の使い方	5
新着図書	7
図書館統計・お知らせ	8



図書館だよりの創刊に当たって

図書・情報センター長 曾根 敏夫

(システム科学技術学部電子情報システム学科教授(兼)学科長)

「読書百遍義自ずから見（あらわ）る」（魏志－王肅伝）ということわざからは、印刷技術が無く、書物を手に入れることが至難であった時代に、権威のある書物を手に入れて繰り返し熟読玩味する姿が浮かんできます。年間、わが国だけでも何万冊という数え切れないぐらいの本が出版され、容易に手にはいる現在とは別世界の話ですが、現代には、多くの出版物から必要な情報を迅速に引き出すという別の課題が課せられております。この課題に介在するのが、図書館であると言ってもよいでしょう。

大学の図書館は、13世紀のヨーロッパにおいて、学寮に寄贈された図書を収納する施設として設けられたのが最初と言われます。その後、大学に図書館を設けるところが逐次増えましたが、当初は、教授の個人蔵書を補うもの、あるいは蔵書を収納しておく場所として機能したもののようです。しかし、18世紀に創設されたゲッチンゲン大学は、大学における教育・研究支援施設として、それまでの規模を抜く図書館を設置し、大学の独創的な研究におおいに貢献したと言われます。学生の利用が認められるように

なったのもこの頃ですが、すべてがそうなのは、もう少し後のようです。

大学の図書館の利用者は、基本的には、教職員と学生です。教員が必要とするものは、研究上必要となる資料の収集、整理とその迅速な提供、および授業に必要な資料の提供であり、学生に必要とされるのは、勉学の補助となる図書の提供、一般教養および人間形成に役立つ図書の提供と言えましょう。地域への開放も求められ、本学でもすでに制度化しておりますが、これは飽くまで副次的なものであり、大学の図書館の有する情報を地域の人々が利用できるようにするということであって、地域の人々のための図書を用意するということとは趣旨が違います。

さて、本学も創立2年目にはいり、図書の数も増えはしましたが、学生の勉学用の図書と専門書が大部分を占め、独立した大学図書館としては、まだまだ幅が狭いように感じられます。学生の図書館利用も少し足りないように思います。たとえば、本学に勤務するようになってから、宿題に対し、わかりませんという解答を提出する学生がいるのに驚いておりますが、これなどは、図書館に行けば、理解を助けてくれるだけのものは十分備えているはずです。残念ながら、わからなくても勉強しないという学生が増えているのでしょうか。

本学の図書館の在り方を考えていく上で、参考になる図書館関連の会合が2つあります。ひとつは公立大学協会の図書館協議会の会合であり、毎年、共通の問題を討議し、開催校の図書館を視察しております。そこで興味の対象となっているのは、図書館の電子化で、どこまで電子化あるいは自動化されているかということです。

図書館の電子化という場合、いくつかの段階に分けることができます。第一段階は、図書館業務の電子化です。情報検索によって、該当する図書を探し出す業務や貸し出し登録業務の電

子化は、どこの図書館でもすでに着手していることです。第二段階は、コンテンツの電子化であり、初歩的な形は、辞典や学会誌、論文集をCD-ROMの形で保存することによって、図書館の必要なスペースを縮小したり、検索すべき項目を直ちに呼び出すことができるもので、国際的な学会誌や国際研究集会のプロシーディングは、すでにかかなりの程度CD-ROM化されております。さらに高度化するなら、主要な図書をインターネット上で見ることができるバーチャル図書館を構成することができますし、そのような意図をもつ動きもあるようです。しかし、ネットワークの料金や著作権問題があって、必ずしも明るい前途を持っているというわけではなさそうです。大学図書館の電子化は、現状ではCD-ROMの段階まで、あるいは貴重な資料の内容を部分的に電子化して外部からも閲覧できるようにするという段階までと思われませんが、IT産業の進展によっては、もっと進んだ段階まで到達するかも知れません。

もうひとつの会合は、東北地区大学図書館協議会です。こちらでは、東北地区の中での災害時の相互支援や、各図書館の有する情報の相互検索などが話題であり、国公私立の壁はあるものの、是非実現してほしいものと考えております。

大学の図書館は、どこも図書費と人手の不足に悩まされております。とりわけ、外国の学会誌の購入は、多くの費用を要し、年間の図書費の大きい部分を占めているのが現状です。さればと言って、教育・研究支援と学生の勉学支援という使命を放棄するわけにはいきません。新しく図書館だよりが発行されることになりましたが、これが、図書館の現状を常に皆さんに知っていただき、図書館改善のためのご助言とご支援をいただくよすがとなることを期待いたします。



あなたの手で成長させる図書館へ

図書・情報委員会図書運営部会長 佐藤 了
生物資源科学部図書館運営委員会委員長

(生物資源科学部生物環境科学科地域計画学講座教授)

秋田県立大学図書館は、生まれてまだ1年半にしかない。だが、その蔵書数はすでに7万2千冊、秋田キャンパスだけでも3万4千冊と立ち上げの足固めを終え、著しく成長しつつある。秋田キャンパスを例にとると、研究情報が日々書き換えられる生物資源分野に関しては、他の大きな大学に決して負けないほどの選りすぐりの最新刊本、最新情報を取りそろえることができた、生物資源科学部図書館運営委員会としては自負している。しかし、誕生間もない若々しい図書館であるため、行き届かない点も決して少なくない。この際、私は、成長する図書館の今後の方向について三つほど希望を述べさせていただきたい。

第一の希望は、何よりもまず、「学生の知の挑戦を支えるインフラストラクチャーとしての図書館」であって欲しいという点である。たとえば筆者は、最近、130万冊という膨大な蔵書数を誇るT大学の図書館事務長の話を聞いた。初学者向けの分野別図書を自分の大学図書館で所蔵しているかどうかを調べたところ、平均で6割弱、分野によっては4割弱しか揃っていなかったというのである。成長する学生の知の挑戦を支えるインフラを整備するには、ただ数さえ揃っていればよいというものではないのである。

教員・職員側には、学生の挑戦の段階を配慮した選書と推薦図書コーナーを設けるなど適切なガイド機能を付け加えることや、図書館そのものの行きやすさ、使いやすさを拡充することも求められてくる。また、学生側にも、教員の

アドバイスを参考にして、講義・試験対策としてだけでなく、自学自習してどんどん知見を広げ、自分の力量を上げていくために図書館を活用することが求められる。

第二は、「生物資源とその科学、とりわけ地域に固有な生物資源に関しては最新かつ最深の情報を備えた図書館」に成長して欲しいという点である。米国の主要大学では、DNAの世界を知らない学士はこれから使いモノにならないという理解から、生物学をたとえば英語・国語のようにすべての学生の必修にしていると聞く。まして本学部の大半はその関連のスペシャリストを育てようというのであるから、原理原則の教育研究だけで十分とは言えない。その意味で、いま、少なからぬ教員や学生たちが「白神の生物資源」など地域固有の資源や地域が直面している問題に果敢に取り組んでいるのも、その意気込みの表れで、注目すべきである。図書館としても、そのように行動する大学人たちをしっかりと支える気概をもって整備内容に創意工夫を凝らしていく必要があるであろう。

第三は、学生ならびに教員と職員スタッフが「参加し、行動する図書館」であって欲しいという点である。学生が成長する一方、世の中も変化するから、図書館に対する要求も当然変化してくる。そのときに「真にニーズに合った図書館を自分たちが作ろう」という考えを共有し、よく相談して行動していくならば、各種の制約を越えて、図書館が大学人のオアシスになることができると思うのであるが、どうであろうか。

図書館利用案内

http://www.akita-pu.ac.jp/library/lib_b.html



授業で習ったことについて、もっとよく知りたいな。

そうだ、図書館へ行こう!!
図書館は、月～金曜日 9:00～19:00（休業期間中は17:00）開館しています。
土、日、祝日、年末年始、左記を除く毎月末日は休館です。

本・雑誌の利用
OPACで県立大学の所蔵資料を確認しよう。

視聴覚資料の利用
AVコーナーに行ってみよう。

その他

読みたい本が
見つかった 見つからない

本を借りる（本学学生・教職員のみ）
IDカードと借りたい資料をカウンターへお持ちください。
学生：二週間以内 五冊 教職員：一か月以内 十五冊
（資料数には雑誌・視聴覚資料を含みます。）

コピーする
「複写申込書」に記入しカウンターへ申し込んでください。（一枚十円）

職員がお手伝いします。御相談ください。

返却する
カウンターへお持ちください。
貸出延長もできません。

視聴覚資料を借りる（本学学生・教職員のみ）
借り受ける方法、貸出点数・期間などは本に準じます。
ビデオ、LDなどの映像資料は貸出しできませんので御注意ください。

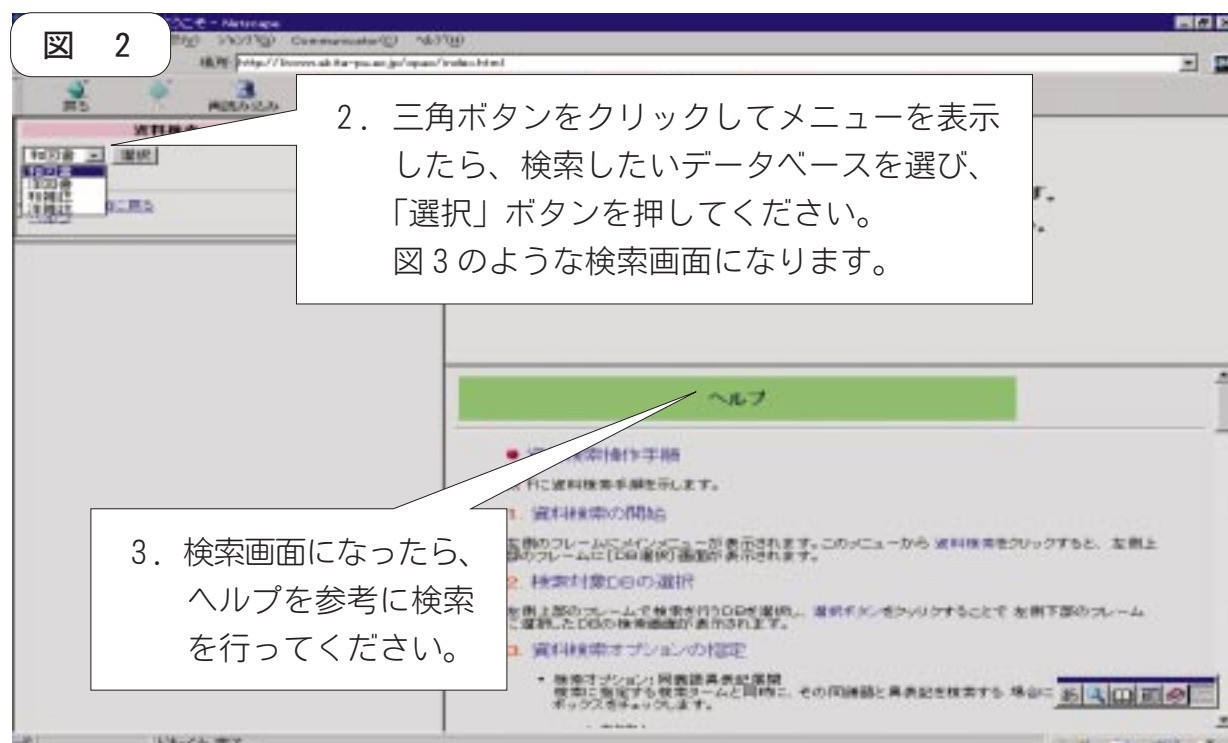
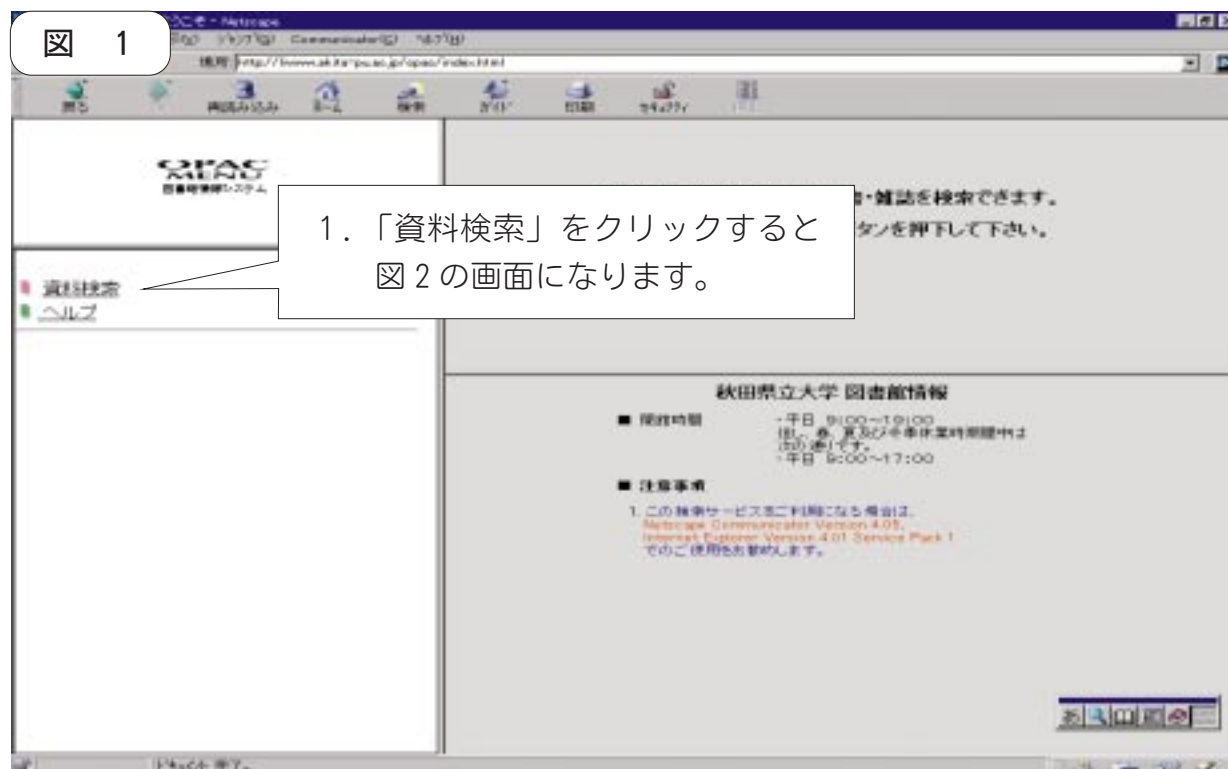
視聴する
カウンターへ視聴したい資料をお持ちください。

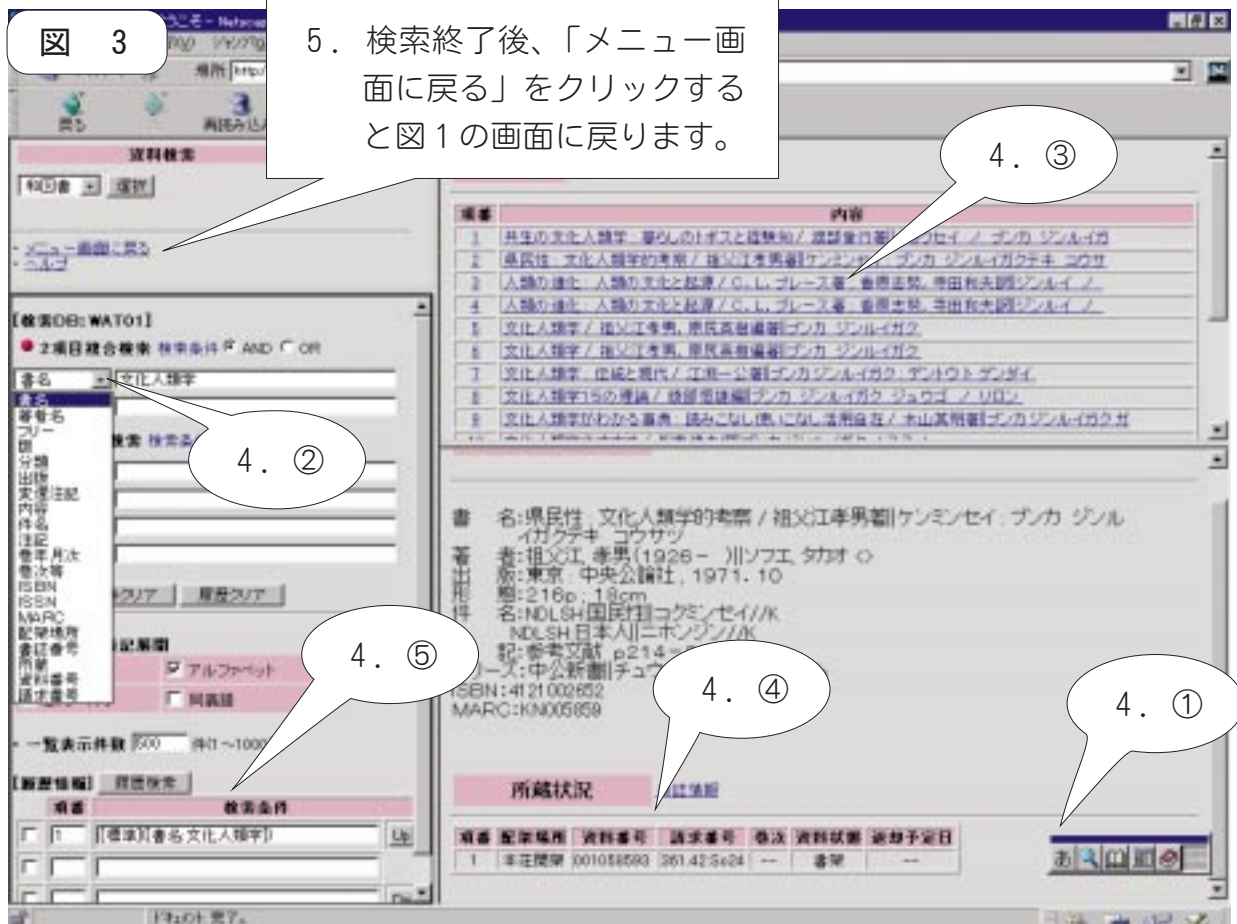
新聞
新聞は新聞架で御覧になれます。

共同研究室・グループ閲覧室
使用する際はカウンターへ申し込んでください。

資料探索法：コンピュータ目録（OPAC）の使い方

OPACは本学にある資料を検索するものです。ここではその簡単な操作方法について御紹介します。OPACは図書館内の専用端末の他、本学ホームページで学外からでも利用することができますので、どうぞ御活用ください。





4. 検索の実際

- ①入力する言語によって入力モードの切替えを忘れずに行ってください。
- ②検索項目はプルダウンメニューによって「書名」・「著者名」・「出版社」・「ISBN」などを選択することができます。
- ③「検索」ボタンを押すと、画面右上に検索結果が表示されます。一冊ずつの詳しい情報を見るためには、見たい資料の項番又は内容をクリックします。
- ④検索結果一覧で見たい資料をクリックすると、画面右下に該当資料の詳しい情報（置いてある場所、貸出状況や返却予定日など）が表示されます。
「請求番号」の詳しい見方は図書館で配布している『図書館利用案内』を見るか、カウンターの職員におたずねください。
- ⑤一度検索したものを再度検索する時は、履歴検索機能を使うことができます。再検索したい履歴情報の項番の左側にあるマスをチェックし、「履歴検索」ボタンを押すと結果が表示されます。

！注意！

- ・「和図書」データベースで洋図書や和洋雑誌の検索はできません。それらを検索するためにはデータベースを 2. の手順で切り替えることが必要です。
- ・短い検索語の方が多く結果が表示される場合があります。一度の検索で見つからなくても、いろいろな検索語を入力して試してみましょう。

《 新 着 図 書 》

資料状態（貸出中かどうか）はOPACで確認してください。貸出中の場合は予約ができます。リクエストの相談にも応じています。

- H. C. マッコーンの教科外活動理論におけるガイダンスに関する研究／島田啓二著
学文社 1999. 本荘開架 375.18:Sh36
- 電気化学便覧 第5版／電気化学会編 丸善 2000. 本荘開架 431.7:D58
- V I S I B L E宇宙大全／藤井旭著 作品社 2000. 本荘開架 440:F 57
- 応用微生物：高等学校用／文部省〔著〕実務教育出版 1995. 秋田開架 465:Mo31
- 幻の植物を追って／萩巢樹徳著 講談社 2000. 秋田開架 470.49:O25
- 生命の暗号を解読せよ：ヒトの設計図／NHK「人体」プロジェクト著
日本放送出版協会 1999. 秋田開架 491.1:N71:1
- 機能性流体・知能流体／日本機械学会編 コロナ社 2000. 本荘開架 501.23:N71
- 地球環境／ミサワホーム総合研究所出版政策室編集 ミサワホーム総合研究所
2000. 本荘開架 518.8:Mi 51
- キャリアアップのための環境／バイオ関連資格試験ガイド／青山芳之〔ほか〕著
日刊工業新聞社 2000. 秋田開架 519.079:A58
- ハンドブック悪臭防止法／悪臭法令研究会編集 ぎょうせい 1999.
秋田開架 519.75:A39
- 金属便覧 改訂6版／日本金属学会編 丸善 2000. 本荘開架 560.36:N71
- 山造り承ります／島崎洋路著 川辺書林 1999. 秋田開架 653:Sh 65
- チューリップ図鑑／J.C.M.Buschman監修 オランダ国際球根協会 2000.
秋田開架 627.6:B95
- 平和の哲学：孔子からユネスコへ／俵木浩太郎著 古今書院 2000.
本荘開架 319.8:Ta97

- 平成12年度新規放送大学単位互換授業科目の参考図書（秋田324冊、本荘310冊）
公的介護保険／本沢巳代子 日本評論社 1996. 秋田開架・本荘開架
364.4:Mo93 など
- 放送大学印刷教材（平成12年度発行分）（秋田75冊、本荘75冊）
新訂教育の歴史／佐藤秀夫編著 放送大学教育振興会 2000. 秋田開架・本荘開架
372.1:Sa85 など
- 非常勤講師担当授業科目の参考図書（保健体育、数学、物理学、情報理論）（秋田143冊、
本荘135冊）
生涯スポーツのプログラム／日本レクリエーション協会編 遊戯社 1995.
秋田開架・本荘開架 780:N71 など

（一部掲載）

《図書館統計…蔵書数》

キャンパスごとの資料の数は次のとおりです。
研究費購入分、寄贈分を含んでいます。

	図書（冊）			雑誌（タイトル）			視聴覚資料 （点）
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計	
秋 田	23,351	10,415	33,766	226	187	413	687
本 荘	29,926	7,973	37,899	304	247	551	699
計	53,277	18,388	71,665	530	434	964	1,386

平成 12 年 3 月末現在

《お知らせ》

図書館内の掲示板にもいろいろな情報を
掲示しますので、是非御覧ください。

◎年末年始の開館日と開館時間について

年末年始（12月28日～1月4日）は閉館です。

また、冬季休業中（12月24日～1月13日）の開館時間は9：00～17：00となります。

12月							1月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31				

 休館日
  9：00～17：00
 何も印がない日は、9：00～19：00

秋田県立大学 図書館だより No.1 2000年11月発行

秋田県立大学 図書・情報センター

(URL:<http://www.akita-pu.ac.jp/library/lib.html>)

●秋田キャンパス

〒010-0195

秋田市下新城野字街道端西 241-7

TEL018-872-1561 FAX018-872-1674

●本荘キャンパス

〒015-0055

本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL0184-27-2049 FAX0184-27-2185